

第35回 JSCRS 学術総会 共催セミナー 9

日時

2020 年
7月1日(水)～7月14日(火)
Web開催

*詳細は学会総会 HP をご覧ください

はじめませんか？ 白内障サージャンの新たな武器 MIGS

座長



石井 清先生
(さいたま赤十字病院)

座長のことば

緑内障手術なのに、白内障術者の間でMIGSと言われ、はっとする先生も増えたのではないのでしょうか？白内障術者にはハードルの高かった緑内障手術が、白内障手術と同時に、かつ低侵襲、合併症も少ないとなれば、導入しない手はないでしょう。最近のMIGSは白内障手術の主創から行える点も、白内障術者には朗報といえます。今回はMIGSの中でも、白内障手術と同時に行うマイクロバイパスシステム、iStent®を用いた水晶体再建術併用ドレーン手術について、経験豊かな術者3名からお話をいただきます。効果は？実際の注意点は？緑内障点眼はやめられるの？など皆様の疑問にズバリお答えできるセミナーになると思います。是非ご来場お待ちしております。

演者 1

「はじめませんか？ 日帰り緑内障手術」

佐藤 裕之先生 (佐藤裕也眼科医院)



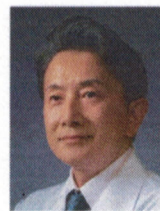
未だMIGSの主流である(と演者は思っている)ab interno trabeculotomyは術後の逆流性出血・眼圧上昇といった合併症の問題があるため、導入できない日帰りクリニックが多数あるのではな

かろうか。GLAUKOS社より上市されたiStent®は眼圧降下という点ではab interno trabeculotomyに劣るとされているが、術後の逆流性出血・眼圧上昇が少なく術翌日も良好な視力が得られる。日帰りクリニックで施行可能な極低侵襲の緑内障手術が開発されたと言っても良いであろう。緑内障手術の大きな変革である。本セミナーでは佐藤裕也眼科の企業秘密であるiStent®患者の選択～説明～手術～紹介元への説明といった流れ、iStent®挿入の精度を上げるための工夫などについて(恥ずかしながら)特別に公開させていただきます。緑内障による失明を減らす一助になれば幸いです。

演者 2

術後早期に良好な裸眼視力を 期待される時代の白内障・緑内障 同時手術「iStent®の使用経験」

松本 惣一先生 (松本眼科)



最新の白内障手術は、検査や手術機器そして技術の目覚ましい進歩により術後早期に良好な裸眼視力が得られるようになった。その影響もあり、白内障術後患者の視力への要求は限りなく

高くなっている。一方、今までの緑内障手術は、術後に高頻度に前房出血や浅前房など一時的とはいえ著しい視機能低下がみられることが珍しくなかった。しかしiStent®の登場により白内障・緑内障同時手術の術後早期の合併症は極めて少なくなり、早期に視機能改善が得られることが可能となった。白内障術者にとってはストレスフリーの緑内障手術と言える。今まで私が追求してきた白内障手術、すなわち手術侵襲を最小限に抑えかつ早期から裸眼視力改善を目指すスタイルには最適なMIGSデバイスである。最新の白内障手術術式やガイダンスシステムとの併用、Heads-upシステム、術中OCTでの評価や顕微鏡を煽る必要のない最新のゴニオレンズの使用経験及び使用法のコツを含め紹介したい。

演者 3

「患者目線で評価するiStent®」

正岡 佳樹先生 (正岡眼科)



当院でiStent®を導入して約1年半経過しました。近年高齢化が進み緑内障患者が増えているのが現状です。しかし緑内障治療の第一選択である薬物治療は高齢になるほど管理が難しく

なっています。白内障術者でもできるiStent®と出会い、緑内障治療の早期介入と緑内障患者のQOVの維持・向上を目的に低侵襲同時手術をはじめましたが、濾過手術に比べ術後合併症も少なく、白内障手術による視力回復と緑内障手術による薬剤数減少により手術後患者さまの喜びは倍になりました。白内障術者の先生方に明日からの緑内障治療のひとつとしてぜひ取り入れていただきたい治療のひとつとなりました。iStent®をインプラントした患者さまへ満足度調査を実施し、患者目線で評価した結果を報告し、今後治療をはじめられる先生方の参考となるようiStent®導入に向けてのStep-upとして適応、術後経過報告、患者さまへの説明、そして動画で分かりやすく手技などを紹介させていただきます。

参加申込方法

本総会共催セミナーは総会参加登録者のみご覧いただけます。
第35回 JSCRS 学術総会 HP 参加登録より参加登録をお願い致します。

参加登録締切：

6月28日(日) 23:59